

2003 年度 委員会活動成果報告

(2004 年 03 月 15 日作成)

委員会名	建築生産小委員会	主 査 名：古阪秀三
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築経済委員会	委員長名：嘉納成男
設 置 期 間	2003 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築生産に関する調査研究及びセミナー等を通じて、効率的な建築生産及び健全な元下関係の構築をもって、建築の質的向上が図られることを目的とする。 2003 年度：建築産業におけるゼネコンの役割、2004 年度：工事監理のあり方、2005 年度：品質確保のための多様な調達方式のあり方について	
委員構成 (委員名(所属))	古阪秀三(京都大) 齋藤隆司(日本郵政公社) 岩下智(鴻池組) 安藤正雄(千葉大学) 樋口正一郎(戸田建設) 飯田省一(日本設計) 石堂修次(大成建設) 浦江真人(東洋大学) 江口禎 遠藤和義(工学院大学) 嘉納成男(早稲田大学) 土橋稔美(鹿島建設) 永易修(フジタ) 山崎雄介(清水建設) 湯浅洋一(竹中工務店)	
設置 WG (WG 名：目的)	建築生産小委 WG (ゼネコン研究のため、ゼネコン活動の基礎的統計資料を収集及び分析する目的で、WG を設置した。)	
2003 年度予算	70,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	委員会：月 1 回開催(平均 10 名程度参加) 建築生産シンポジウム(2003 年 7 月 24 日・25 日(約 120 名)) 建築生産セミナー「PFI について」(2003 年 12 月 12 日(約 80 名)) 建築生産パネルディスカッション(2004 年 3 月 3 日(約 60 名))
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 本年度は昨今の建設市場の縮小を踏まえ、これまでゼネコンが果たしてきた役割について、経営施策、技術開発、元下関係、設計施工の連携など、いくつかの観点から分析を行った。さらに、今後のゼネコンのあるべき方向について、数社からのヒヤリング等を通じて一定の結論を得ることができた。これらの成果については、産業構造に関する特別研究会と連携したうえで、報告書として発表する予定である。 また、建築生産の質的向上のために実施された建築生産シンポジウムでは 38 編に及び研究発表が行われ、100 名を超える参加者とともに建築生産に関する先端情報の共有を行うことができた。 さらに、同じ目的で開催された建築生産セミナーでは、日本における PFI の現状と課題を抽出するため、事例発表や制度比較などにより、参加者との意見交換も含めて、活発な議論が展開された。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 本年度の委員会活動の主眼は、ゼネコン研究を通じて建築生産に関する調査研究を行うことであったが、建設市場、ゼネコン保有技術及び今後の技術開発戦略、経営戦略、建築プロジェクトにおける元下関係の再構築過程などを通じて、建築生産において多大な役割を果たしてきたことを明確化することができた。 一方、建築生産の普及活動として開催されたシンポジウム等についても、多くの参加者を得ることができ、全体の情報共有が図られたことは大いなる成果と言えよう。
その他評価すべき事項	3 つのシンポジウム等を通じて、学会活動に際し、財務的な貢献を行うことができた。